

倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
 〒712-8057 倉敷市水島東千鳥町1-60
 TEL 086-444-3212
 老人保健施設 **老健あかね**
 TEL 086-446-6541



コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。

「くらしき脳卒中地域連携の会」報告 〜脳卒中治療とリハビリの連携〜

題名の講演会が11月11日に開催されました。この会は倉敷中央病院脳神経外科・脳卒中



座長の庵谷医院院長庵谷和夫先生と筆者(右)

開催されました。この会は倉敷中央病院脳神経外科・脳卒中科(以下、倉中)、川崎医科大学附属病院脳卒中科(以下、川大)、リハビリテーション科を代表に地域で脳卒中診療にあたる施設が世話

【急性期脳卒中治療の進歩と地域連携の現状と今後】

最初の講師は倉中主任部長の沈正樹先生です。倉中、川大はここ倉敷地域の脳卒中センターです。

沈先生はまず自院の先端技術を紹介(図参照)。それ院内チームが迅速に駆使した治療成績は4割は歩いて自宅退院です。残り5割は回復期リハビリが必要です。その後



講演Iの倉敷中央病院脳神経外科・脳卒中科主任部長の沈正樹先生



左が機械的血栓回収術。マイクロカテーテルで脳血栓を取り除く治療です。右が脳動脈瘤の最新血管内治療「Flow diverter」。これで動脈瘤は自然と消失し破裂の心配も消えます。



日本リハビリテーション医学会へ参加した筆者

皆様「QOL」という言葉をご存知でしょうか? 医療従事者の方はご存知ですが、「生活の質」という意味です。医療従事者の方も一般の方も生活の質は高い方が良くとも

短時間通所リハビリの利用者様を対象に質問表を用いてQOLを数値化した研究を実施して頂くため、11月4日〜11月6日まで岡山で開催された日本リハビリテーション医学会秋季大会

(コープリハビリテーション病院 短時間通所リハビリテーション 責任者 岡野泰樹)

日本リハビリテーション医学会 QOLを数値化した研究を発表

「生活の質」という言葉... 医療従事者の方も一般の方も生活の質は高い方が良くとも

短時間通所リハビリの利用者様を対象に質問表を用いてQOLを数値化した研究を実施して頂くため、11月4日〜11月6日まで岡山で開催された日本リハビリテーション医学会秋季大会

また、研究の取り組みをより多くの方に知っていただくため、院内でも発表資料を閲覧したり、11月下旬に行なわれる、岡山QOLネットワークでの勉強会でも発表する予定です。私もまだまだQOLについて勉強し始めたばかりですが、興味がある医療従事者の方は是非勉強会にも参加して頂ければと思います。



講演IIの日本慢性期医療協会会長、橋本康子先生

も歩いて退院とならず施設や慢性期の入院になる人もいます。それに手を差し伸べるのが退院後の生活・就労支援なども併せて行う倉中「脳卒中相談支援センター」です。今後の鍵は老健(当院なら「老健あかね」)などの維持期リハビリとの連携です。次の講演は回復期・維持期のリハビリの紹介です。

山本院長と話す「ちよつと入院ずつと在宅」という理想とダブってしまいました。沈先生も触れられた就労支援も本気で患者の夢の実現を後押ししていました。



タウンリハビリという言葉があります。行政が率先して障がい者が外出したくなるまちづくりをすべきという考えです。それを橋本先生は先駆けて実践していました。

以上から、最先端の医療とリハビリとのまさしく途切れない連携を実感しました。(コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真二郎)

